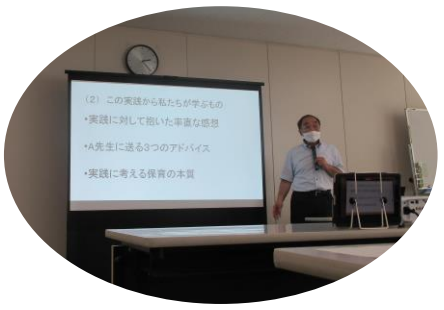
令和４年度　保育士研修　第１回加藤繁美保育ゼミ

テーマ　『対話の時代』の保育の課題



R4．6．２８

和光市　保育センター発行

令和４年６月１０日、山梨大学名誉教授の加藤繁美先生をお招きして、第１回加藤繁美保育ゼミが開催されました。初回となる今回のゼミでは、「対話的関係」について講義形式でお話していただきました。

日々、子どもたちと向き合う中で保育実践を記録し、保育を語り合い、分析する力をつけていくにはどのようにしたら良いのか？全５回のゼミでは受講者の皆さんが主体となって話し合える場を設けながら、「対話する保育」についてしっかり学びを深め、実践に繋げていけたらと思っています。

～加藤先生から学ぶ対話的関係（研修ダイジェスト）～

対話とは？
対話と会話の違いはあるの？

会話＝話し合いの機能、話し言葉でのやりとり

対話＝相手の表情を見ながら何を感じているかを捉え、
互いの違いを大事にしながら相手を理解しようとし、
コミュニケーションをとること

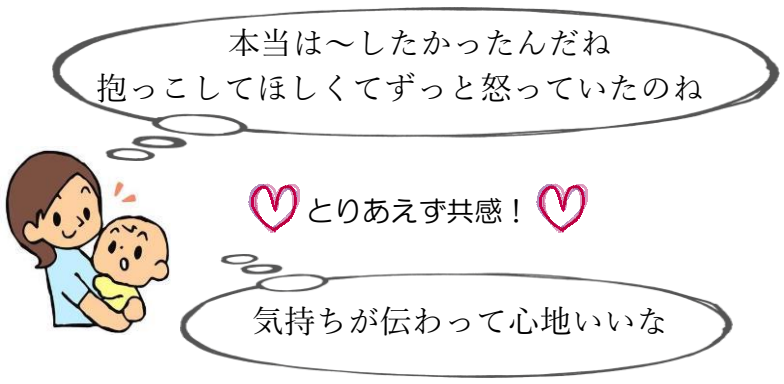
～保育の現場での対話的関係とは？？～

『自分の考えと違う人と交じり合うことは心地良い』と思う社会を、保育者が子どもと一緒につくり出すことが大切！

子どもたちとたくさん話をするだけではなく、子どもの表情を見ながら何を考えているか？求めているか？考えながら関わること。表面の声を受けとめながら真実の声を読みとること。

とりあえず共感

子どもの行動にはすべて大切な意味があります。
まずは子どもの立場になって、何を求めているかを読み解き、共感することばをかけてみましょう。
最初の一言（第一声）で、その後の関りが決まってくるので、子どもの行動、ことばに対して『とりあえず共感！！』することが大切です。



共感せずに叱る、共感せずに否定することばを使っていませんか？

私の保育と別の人の保育をつなげよう
～グループディスカッション～

ゼミの目的でもある『自分たちの実践を語りながら話し合い、議論し、分析する』という力を身に付けていくために、初回は加藤先生著書の「記録を書く人　書けない人」に記載されているＡ先生の実践記録を題材に、５～６人のグループでＡ先生に送る「３つのアドバイス」を話し合い、発表しました。

『記録を書く人　書けない人』
加藤繁美　著
P40～54 より抜粋

保育実践を記録し、分析し、職員間で共有する意味・意義がよく分かりました。自分の園でもそのような時間を持つことを試み始めましたが、まだ十分でないところもあるので、今後の参考にしたいです。
また、「第一声にその保育士の保育観が出る」「とりあえず共感を」という話が正にそうだなと実感しています。とても分かり易いフレーズなので、この点も職員間の話題に出すなどして、職員同士の前向きな振り返りに活かしていきたいと思います。

（にいくら保育園　中野先生）

ゼミ参加者の
感想

「対話」の視点が非常に勉強になった。「会話がなくても相手のことを分かろうとすること」この事は対子どもだけではなく、対職員、対保護者、対家族…等、人と人が関わる際に最も大切な根っこの部分だと思った。相手のことを受け入れる余裕を持つことは思いやりにつながる。優しい心を持って、１人ひとりの相手との関わる時間を温かいものにしていきたい。

（みなみ保育園　菅澤先生）

加藤先生のお話に惹き込まれ、あっという間の１時間半でした。様々な保育施設の先生方と保育について語り合える時間はとても貴重だと感じています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

次回は　８月１８日（木）１３：３０～１５：００　和光市役所６０２会議室でお待ちしています！！